

東海第二発電所 工事計画認可申請書の修正を考慮すべき箇所の抽出結果

No	分野	図書名	当該ページ	章番号	修正要領	変更理由
						【凡例】 A: 文意が異なる。意味が異なる。 B: 修正したほうがよい。修正なくても意味は理解可能。適正化 C: 誤字, 脱字の程度の間違い
1	耐震	V-2-10-1-5-6 緊急時対策所用発電機制御盤の耐震性についての計算書	20	1.7	1.2機器要目「nfi*(評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数)」の取付ボルトの本数を逆に記載。 上段「2」→「3」 下段「3」→「2」 ※計算結果に影響なし。	A
2	耐震	V-2-10-1-7-26 緊急時対策所用非常用換気空調設備操作盤の耐震性についての計算書	10, 12, 14	6	1.1設計条件の「据付場所及び床面高さ」の項目の、建屋名称(緊急時対策所建屋)のマスクング不要のため、削除。	B

【緊急時対策所用発電機制御盤の耐震性についての計算結果】

1. 重大事故等対処設備

1.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
緊急時対策所用発電機 制御盤	常設/防止 常設/緩和	緊急時対策所建屋 EL. 23. 30	短辺方向 [] 長辺方向 []	0.05 以下*1	—	—	$C_H =$ 1.43 又は*2 (短辺方向 : 2.58) (長辺方向 : 1.43)	$C_V = 1.27$	[]

注記 *1: 加振試験より 0.05 秒以下であり、剛であることを確認した。

*2: 基準地震動 S_s に基づく設備評価用床応答曲線より得られる値。

1.2 機器要目

部材	m_i (kg)	h_i (mm)	l_{1i}^* (mm)	l_{2i}^* (mm)	A_{bi} (mm ²)	n_i	n_{fi}^*
基礎ボルト (i=1)	[]						2
							2
取付ボルト (i=2)	[]						3
							2

部材	S_{yi} (MPa)	S_{ui} (MPa)	F_i (MPa)	F_i^* (MPa)	転倒方向	
					弾性設計用 地震動 S_d 又は静的震度	基準地震動 S_s
基礎ボルト (i=1)	725	930	—	651	—	短辺方向
取付ボルト (i=2)	245	400	—	280	—	短辺方向

注記 *: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。

【操作盤の耐震性についての計算結果】

1. 重大事故等対処設備

1.1 設計条件

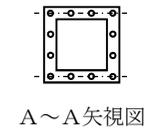
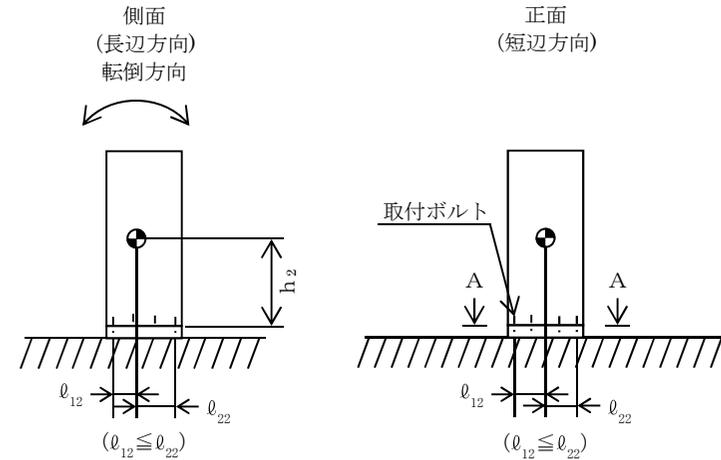
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
操作盤	常設/緩和	緊急時対策所建屋 EL. 30.30	0.05 以下	0.05 以下	—	—	$C_H=1.54$	$C_V=1.36$	

1.2 機器要目

部材	m_i (kg)	h_i (mm)	l_{1i}^* (mm)	l_{2i}^* (mm)	A_{bi} (mm ²)	n_i	nf_i^*	
取付ボルト ($i=2$)							4	4

部材	S_{yi} (MPa)	S_{ui} (MPa)	F_i (MPa)	F_i^* (MPa)	転倒方向	
					弾性設計用 地震動 S_d 又は 静的震度	基準地震動 S_s
取付ボルト ($i=2$)	235	400	—	280	—	長辺方向

注記 * : 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。



【補機補助盤の耐震性についての計算結果】

1. 重大事故等対処設備

1.1 設計条件

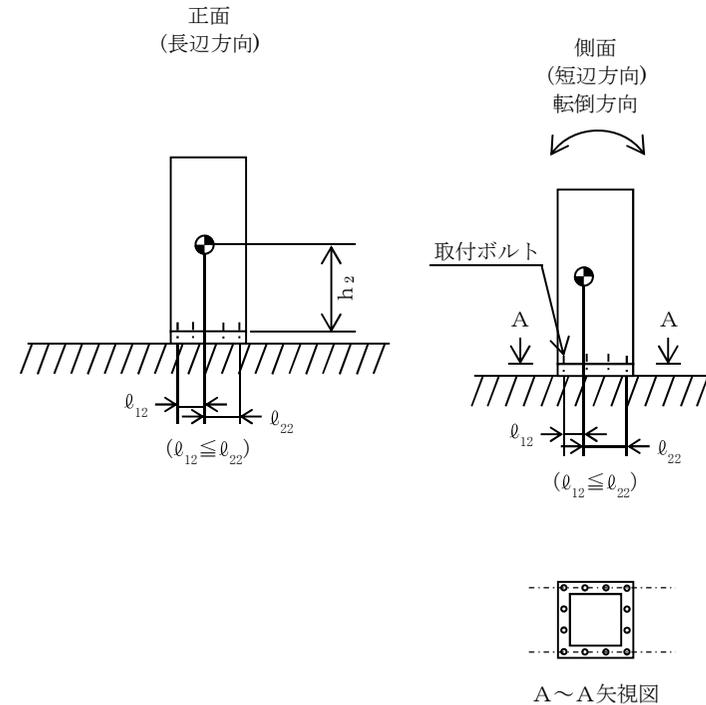
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
補機補助盤	常設/緩和	緊急時対策所建屋 EL. 30.30	0.05 以下	0.05 以下	—	—	$C_H=1.54$	$C_V=1.36$	

1.2 機器要目

部材	m_i (kg)	h_i (mm)	l_{1i}^* (mm)	l_{2i}^* (mm)	A_{bi} (mm ²)	n_i	nf_i^*
取付ボルト ($i=2$)							4
							4

部材	S_{yi} (MPa)	S_{ui} (MPa)	F_i (MPa)	F_i^* (MPa)	転倒方向	
					弾性設計用 地震動 S_d 又は 静的震度	基準地震動 S_s
取付ボルト ($i=2$)	235	400	—	280	—	短辺方向

注記 * : 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。



【オペレータコンソール機の耐震性についての計算結果】

1. 重大事故等対処設備

1.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
オペレータコンソール機	常設/緩和	緊急時対策所建屋 EL. 30.30	0.05 以下	0.05 以下	—	—	$C_H=1.54$	$C_V=1.36$	

1.2 機器要目

部 材	m_i (kg)	h_i (mm)	l_{1i}^* (mm)	l_{2i}^* (mm)	A_{bi} (mm ²)	n_i	nf_i^*
取付ボルト ($i=2$)							6
							2

部 材	S_{yi} (MPa)	S_{ui} (MPa)	F_i (MPa)	F_i^* (MPa)	転倒方向	
					弾性設計用 地震動 S_d 又 は静的震度	基準地震動 S_s
取付ボルト ($i=2$)	235	400	—	280	—	長辺方向

注記 * : 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。

